

国際理解講座



8月23日（木）7校時目の総合的な学習の時間に、「福島から世界へ」と題し3学年を対象とした国際理解講座を開催しました。今回は国際的な視野を持って、県内で活動されている5名の方々をお招きしました。それぞれ異なる分野でのお話でしたが、福島を発信地としてご活躍されている方々の大変貴重なお話を伺うことができ、まさに進路活動真っただ中にある三年生にとって起爆剤になったのではないかと思います。

テーマ「福島から世界へ」

- 竹田 有理 氏（タイ文化）
- 末永 早夏 氏（Ethicafe・フェアトレード）
- フイ・バン・ホック 氏（ベトナム技能実習生相談役）
- 舩田 玲香 氏（日本画家）
- 武藤 啓一 氏（ブラジルとの交流）



パプアニューギニアの工芸品

「タイ式じゃんけん」
で盛り上がりました。



メモを取りながら真剣
に耳を傾けています。



🌀生徒の感想より🌀

- ・国連などが貧困をなくそうと様々な事業を行っていますが、結局のところ労働力に見合った賃金を支払えば、そのような問題も解決できると聞き、本当にその通りだと思いました。労働の搾取はあってはならないと思った。
- ・ブラジルに住んでいる日系の人は160万～180万が住んでいて、その数は福島県の人口と同じくらいということを知りました。シニアボランティアとして世界に貢献していられるような生き方は素晴らしいと思いました。
- ・福島県の桃を東日本大震災以降初めて輸入した国がタイであると知りました。その後も20トン以上も輸入を続けていると知り、タイのことをあまり知りませんでしたが、福島と友好的な結びつきが強い国なのだとわかり親近感がわきました。
- ・何にでも積極的にチャレンジする姿が素晴らしいと思いました。震災も経験しつらい思いをたくさんしても、生きているからこそできること、自分の好きなことができる幸せを感じられている生き方がかっこいいと思いました。
- ・外国人技能実習制度を利用して来日する人たちの半分がベトナム出身と聞き驚きました。ベトナムの人々は親日家が多く、器用で日本人に気質が似ているといったことから、この制度を利用して定住しているベトナム人が増加しているそうです。その反面、様々な理由で帰国してしまう人たちもいるということでした。福島県の最低賃金が低いのもっと高くなれば良いと思いました。また、今日のような講座をもっと増やし、実習生の現状を理解したり、交流の場を設けたりすることも必要なのではないかと感じました。